

## 重点方針1

### 協同組合間連携の取り組みのさらなる推進

#### 1. 協同組合の連携による社会的課題解決に向けた取り組みの推進

(1) 兵庫県生協連とコープこうべ、8つの医療生協が主催し、会員生協・団体や兵庫JCC・ユニセフ協会の協力、行政や新聞社などの後援で「ひょうごまるごと健康チャレンジ2019」の取り組みをすすめました。それぞれの団体での取り組みに加えて、各地域で開催されたイベントにおける医療生協の健康チェック活動と合わせて参加を募りました。また10月1日には第1回「ほがらかウォーク in 東灘」を開催。参加した300人にエントリーをおすすめすると共に、医療生協の健康チェック活動や神戸市・兵庫県ユニセフ協会の取り組み紹介等実施しました。



健康チェック活動



ほがらかウォーク in 東灘



健康チャレンジポスター

(2) 兵庫JCC活動の充実をはかるとともに、7月5日、兵庫県民会館で、第36回兵庫JCC委員会を開催。各協同組合のトップ15人が出席し、年間活動計画の確認や情報交換等を行いました。

(3) 7月5日、第97回国際協同組合デー・兵庫県記念大会をけんみんホールで開催。兵庫県、神戸市をはじめ多くのご来賓や、各協同組合の役員・職員、組合員334人が参加しました。第2部では、「私たちの選択が未来を変える～エシカル消費のすすめ～」をテーマに、末吉里花氏より記念講演を行いました。今回は各協同組合が取り組むエシカル消費などSDGsに関する展示も行い、組合員に協同組合間連携・協同の大切さを広める機会となりました。



兵庫 JCC 委員会



国際協同組合デー・兵庫県記念大会講演 末吉里花氏

(4) 社会的課題解決に向けた協同組合間協同・連携の実践体験を通して、協同組合の若手人材の育成や交流を目的とする「虹の仲間づくりカレッジ」を、7月11日～12日、9月9日、2月13日(全3回)コープこうべ協同学苑で開催。21人が受講しました。カレッジ生は、SDGsの視

点で社会的課題を解決する協同組合について学び、つながり合うことで、さらにどのような取り組みを行えるか、班単位で企画しそれぞれが実践のうへ報告共有しました。



「SDGs⑮陸の豊かさを守ろう:木を食べる」



「SDGs⑪住み続けられるまちづくりを:たこ釣り体験」



「SDGs⑭海の豊かさを守ろう:マイクロプラスチック採取」



「SDGs⑤ジェンダ-平等を実現しよう:料理に挑戦」

(5) 機関誌「ひょうごJCC」第90号、91号を発行し、生協、農協、漁協、森林組合相互の情報交流を深めるとともに、行政やマスコミ、関係諸団体への広報も強化しました。

(6) 10月23日協同組合間の理解と交流を深める目的で「2019年度兵庫JCC協同組合研究・交流会」を開催。各協同組合が持ち回りで企画し、今回は森林組合の主催で木材利用促進を目的に建設された兵庫県林業会館や林業作業士の新人研修現場を見学。重機操作も体験し、木の育成と資源循環を成立させ、豊かな森そして自然全体を守る大切さを学びました。



協同組合研究・交流会



## 2. 健全な生協運営に資するための事業と活動の情報共有と交流

(1) 10月3日、けんみんホールで兵庫県生協大会を開催。井戸敏三兵庫県知事をはじめ行政・関係団体ご来賓、組合員、役員・職員ら350人が参加。「地域共生社会の実現に向けて～誰もが安心してらせる居場所づくり～」をテーマに村木厚子氏による記念講演を開催。「子供の貧困の連鎖を食い止め、様々な生き辛さを抱えた人にも居場所と出番が見つかる地域づくり」についてデータや自らの経験も交えながら話されました。記念催事では医療生協とコープこうべ共済センターによる健康チェック活動や兵庫県健康財団による肺年齢測定などが行われました。



兵庫県生協大会



記念講演:村木厚子氏

- (2) 兵庫県生協連理事会では会員生協・団体の活動・事業の進捗状況等を共有し、交流を促進しました。
- (3) 11月7日、兵庫県民会館で兵庫県・兵庫県生協連共催「第22回監事研修会」を開催。10生協14人が参加しました。兵庫県企画県民部県民生活局消費生活課の奥見知子主幹から「生協の指導検査を実施して」と題して事例を交えながら解説いただき、続いて日本生協連総合マネジメント本部法務部部長の宮部好広氏から監査環境の整備や業務監査について講義を受けた後、参加者同士で自生協の監査状況などについて情報交換を行いました。
- (4) 会員生協の役員・職員を対象に10月30日に「2019年度初級経理学校」を開催。9生協・2関連会社から18人が参加しました。また、2月17日～18日には「第18回税務・経理講習会」を開催。6生協・2関連会社から13人が参加し、経理や税務の基礎を学びました。
- (5) 大学・医療・共済の各部会や医療生協部会組織担当者会議では、活動や事業運営などに関する情報共有や相互交流をすすめました。共済生協部会では11月15日に「災害リスクに関する情報の解説について」学習会を実施しました。
- ・大学生協部会(3回) ・医療生協部会(2回) ・医療生協部会組織担当者会議(2回)
  - ・共済生協部会(3回)
- (6) 生協活動委員会は、通常総会や生協大会の企画立案や当日の運営を行うと共に、情報交換を通して交流を深めました。
- (7) 生活問題研究会は、今年度からテーマを「居場所づくりについて」とし活動をすすめました。11月11日には認知症カフェ「ume のつぶやき」とコープこうべ「みなくる☆そのだ コープさんところ」を研究会メンバーらが訪問。誰もが心地よく過ごすことができ、自分の出番も見つかるような居場所について、カフェの見学や居場所に関する学習会を実施しました。次年度もこのテーマに継続して取り組み、生協らしい居場所づくり等について研究をすすめます。



「ume のつぶやき」



「みなくる☆そのだ コープさんところ」

- (8) 保健・医療・福祉研究会は、これからの協同組合活動についてイタリアの生協の事例から学ぶために、11月19日長野県高齢者生協の田中夏子理事長による講演会を開催。6会員生協から22人が参加しました。地域間の格差が大きく、相次いで震災にも見舞われたイタリアにおいて増加している社会的協同組合やコミュニティ協同組合について学び、今後の日本の生協活動にどう生かしていくか調査研究をすすめました。



保健・医療・福祉研究会「イタリアの生協から学ぶ」



講師 田中夏子氏

- (9) 月刊機関誌「兵協連だより」の充実をすすめると共に、10月には「ひょうごの生協2019」を発行しました。また、兵庫県生協連ホームページの刷新をすすめ、会員生協間の連携と交流の促進をはかるとともに、行政・関係諸団体を含む地域への発信力を強めました。
- (10) 近畿地区生協府県連協議会、関西地連運営委員会、関西地連県連活動推進会議等への出席を通じて、関係者との連携・交流を深めました。
- (11) 兵庫県生協連合会の創立70周年(2020年)に向けて、記念事業委員会と記念誌作成委員会を立ち上げ、基本構想や計画などについて検討をすすめました。

## 重点方針2

### 消費者市民社会の形成に向けた取り組みを強化

#### 1. 行政や地域諸団体との情報共有や意見交換の機会を活かし、連携・協働による助け合いの地域社会づくりを推進

- (1) 8月5日「第18回兵庫県企画県民部と兵庫県生協連理事会との懇談会」を開催しました。兵庫県から令和元年度の消費者行政等について説明いただき、兵庫県生協連からは購買、大学、医療、共済の分野ごとに会員生協の活動を報告しました。その後、意見交換や懇親会を行い相互理解を深めました。
- (2) 8月28日「第31回近畿地区生協・行政合同会議」が奈良で開催され、厚生労働省や近畿地区の行政担当者と各生協連合会の役員・職員ら総計42人が参加。近畿2府4県に福井県を加えた7府県の生協連合会からなる「近畿地区生協府県連協議会」主催で毎年開催。安全・安心な暮らしを支えるため生協と行政のパートナーシップを深めることが目的。今回は「安心してらせる地域社会づくりをめざして～誰一人取り残さない社会の実現に向けて～」をテーマに報告や意見交換を実施。大阪大学大学院人間科学研究科 渥美公秀教授が「連携と協働でつくる災害に強いまちづくり」と題して特別講演を行いました。
- (3) 神戸市による啓発ポスター掲示などを行い、行政と大学生協の連携による消費者被害防止に取り組みました。

## 2. 適格消費者団体と連携し、消費者市民社会づくりに向けた消費者啓発支援を推進

- (1) 2月5日兵庫県生協連、コープこうべ、ひょうご消費者ネット、消費者支援機構関西による「ひょうご消費者セミナー2019」を開催。適格消費者団体より〇×クイズ形式で消費者啓発学習を行った後、(一社) EC ネットワーク理事 原田由里氏より「キャッシュレス時代を生き抜くために～スマホ決済これだけは注意！～」と題して講演会を実施。便利さの裏側に潜んでいるネット詐欺への備えなどについて具体的に学ぶ機会となりました。



適格消費者団体による「〇×クイズ」



ひょうご消費者セミナー2019 原田由里氏

- (2) 兵庫県の2019年度「事業者団体等による消費者教育支援事業」補助金を活用し、会員生協が講演会・学習会を実施しました。今年度は4生協が助成を受け、消費者トラブル防止・啓発に取り組みました。
- (3) 兵庫県が発行する「兵庫県安全安心な消費生活推進本部ニュース」や「地域別消費生活相談事例」、近畿農政局の「消費者情報」、特定適格消費者団体KC's のメールマガジンを会員生協・団体に定期配信しました。

### 重点方針3

#### 平和で安心して暮らせる社会の実現に向けた、社会的課題への取り組みを推進

### 1. 平和の取り組み

- (1) 兵庫県生協連では、毎年、ピースアクション委員会を通し、県内の購買・大学・医療・共済生協が取り組む平和活動の交流をすすめています。
- (2) 「ピースアクション2019身近な戦争遺跡を訪ねる」を2回にわたって開催。組合員や役員・職員のべ79人が参加しました。1回目は8月21日シベリア抑留者に関する資料館「舞鶴引揚記念館」などを見学。2回目は10月22日加西市に残されている特攻隊飛行場「鶉野飛行場」跡地や近隣の巨大防空壕跡などを訪れました。残された戦争遺跡を見ながら語り部から戦争の悲惨さを聴き平和の大切さ尊さについて考える機会となりました。



舞鶴引揚記念館



戦闘機『紫電改』模型前で語り部から話を聴く

## 2. 防災・減災に向けた取り組み

- (1) 1月11日「第15回新春トップセミナー・賀詞交換会」を兵庫県民会館で開催。会員生協・団体の役員・職員、JA・森林組合を含めた協同組合の経営管理層中心に47人が参加しました。セミナーでは、冒頭、井戸敏三兵庫県知事にご挨拶いただき、その後、兵庫県立大学・大学院 木村玲欧教授から「阪神淡路大震災25年に考える大規模自然災害への備え～地域の生活復興に向けた生協の役割と期待」と題して講演いただきました。賀詞交換会では兵庫県から生安衛県民生活局長をはじめ、企画県民部県民生活局消費生活課の皆様にも出席いただき、参加した役員・職員との交流も深まりました。



井戸敏三兵庫県知事



新春トップセミナー 木村玲欧教授



木田克也会長理事

- (2) 12月13日第1回災害対策委員会を開催。災害発生時における兵庫県生協連の位置づけと役割の確認等を行いました。また、南海トラフ地震発生を想定した初動対応や発災後1週間程度経った後の行政や関係団体との連携図上訓練の内容共有化や意見交換を行いました。

## 3. 「緊急時における応急生活物資供給等に関する協定」および「実施細目」にもとづき、会員生協と連携して緊急時の救援、支援活動ができる体制づくりを推進

- (1) 会員生協・団体の緊急時連絡網の点検(7月実施)と緊急通行車両の登録事項の点検を行いました。購買生協、医療生協、関連子会社の緊急通行車両登録を確認。2019年度末の登録台数は1,517台で、万一の災害時には、県からの支援要請に基づき「事前届出済証」を近隣警察署に提出することで、円滑に緊急通行車両確認がすすみ標章が交付される仕組みとなっています。
- (2) 日生協関西地連主催のMCA無線通信訓練に4回参加し、無線を配備しているコープこうべ、生活クラブ生協、コープ自然派事業連合の状況を兵庫県生協連で集約・報告しました。